

設問一	ア	イ	ウ
	えんかつ	ざんていてき	こころよ (い)
	エ	オ	
	たんてき	なら (わし)	
設問二	a	b	c
	荒波	不思議	漫然
	d	e	
	成員	構想	
設問三	A	B	
	3	4	
設問四	(1) 人間が社会をつくる		
	(2) 社会をつくり、運営し、変える力としての社会力		
設問五	<p>ジンメルという「社会化」は、人々が日常的に繰り返している相互行為が、社会なるものを成り立たせている実体であり、それが社会を社会たらしめているということの意味する。また、心理学の常用語である「社会性」は、すでにある社会にうまく適応できている、社会に適応してやっていけるさまざまな知恵や技術を身につけているということの意味する。つまり、「社会化」も「社会性」も、既に存在する社会に対して各人がどのように向き合うべきかを問う概念である。これは現にある社会の側に重点を置いている。</p> <p>これに対して、「社会力」とは、社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資質や能力を意味する。これは社会を作る人間の側に力点を置いている。社会という実体は、人間と離れて存在しない。だから、既存の組織とか制度とか法律とか、人間の都合に応じていつでもなくせるし、いつでも都合のいいものに変えることができる。「社会力」はこうした社会の実情に即した概念である。</p> <p>何人かの生きた人間が集まっている状態が社会なるものの実体であり、人間は次々に生まれては死んでいく、すなわち、社会の構成員は刻々と変わっていくのだから、社会は常に変化していく。つまり、社会は常に生成の過程にある。完成態として確立されることはない。社会を構成する人間の能力や好みに応じて、社会は不断に刷新される。そうであれば、主体的に、好ましい社会を構想し、作り、改革していく意図と能力と、そのための日常的な活動こそが、重要になる。よって、「社会力」は、子どもや若者だけではなく、先行世代である大人たちを含む、社会を構成するあらゆる世代に必要な力である。</p>		